

ベトナム溶接研究会 第16回研究会(@ハノイ)

勝又 美穂子

グローバル D&I 推進室 准教授

2025年11月27日(木)、第16回ベトナム溶接研究会をハノイで開催しました。今回は研究会でも初の取り組みである、ベトナムの大学訪問を実施しました。研究会には約35名の参加者があり、盛況となりました。

訪問したのは、ハノイ・ハドン地域に位置する私立大学、Phenikaa 大学です。Phenikaa 大学は前身の大学から2018年にPhenikaa 大学へ変更となり、それ以降、教育、研究、学外連携などにおいて活発な活躍を見せている大学です。学生数は約35,000人とのことです。外国語学部には日本語専攻もあり、当日は見学者を3つのグループに分けて2年生と4年生の日本語授業見学も行いました。授業中には、音声で流れた日本語を口頭で訳しつつ、先生の指示に従って各個人が自分の携帯電話に向かって音読を吹き込み、そのまま先生にメッセージで送り、授業内で発音を確認するという授業スタイルも見学しました。参加企業からの

質問に対しては、恥ずかしがりながらも、「日本の景色が大好きなので日本語を勉強しています」などの回答がありました。

その後、機械工学部のオートメーション・自動車実験室や機械加工室などを見学しました。実験室には自動車の内部が見えるよう車体を切断したモデルやエンジンなども多く配置されており、また、充実した機材設備により実践的な教育が実施されていることが理解できました。

更に施設見学後には、外部連携担当者、日本語学科教員、機械工学部副部長などを含めた情報交換の場が設置され、Phenikaa 大学は外部連携を益々強化していきたいとし、今後の連携強化に期待する言葉がありました。当日は短い時間でしたが、ベトナムの私立大学を牽引するこれからの大学像を垣間見ることができ、有意義な時間となりました。



電気電子専攻実験設備見学



全体写真